

物語がいっぱい

その3, 康生の「朝鮮通信使と鳥山牛之助」

徳川家康公は、豊臣秀吉の朝鮮侵略からわずか9年後の慶長12年(1607)に、李氏朝鮮と対等の国交を回復。江戸時代を通し全12回、親善使節である「朝鮮通信使」が来日しました。朝鮮通信使の一行は総勢で500人を数える大規模なもので、毎回詳細な旅日記形式の報告書を残しました。天和2年(1682)の第7次の報告書となった「東槎録」を著した金指南は、「鳥山牛之助なる者が来て接待のことを管理した。そして最も懇切丁寧な供応をした」と記し、岡崎での接待が第7次の中で最高のものだったと、高い評価をしてくれました。



その4, 本町通の「安倍晴明」



平安時代中期、安倍晴明がこの地に陰陽道を伝え、霊泉を掘りました。江戸時代となり、その道場跡に創建されたのが晴明神社です。霊泉は「晴明井」と呼ばれ、「岡崎七つ井」の一つに数えられ、霊水を求める人は後を絶たなかったと伝えています。

※裏面に「その5」があります。

早耳情報

柄澤照文さんが電車どおりの物語を5体の可愛い人形に！生田薫さんは町歩きが楽しくなる手ぬぐいのデザインを展示します

町歩きを楽しんだ後に欲しくなるのがその町のお土産。ペン画家の柄澤照文さんは、市電と町並みの写真を展示した「昭和の元気展」会場で、三河土人形の雰囲気現代のセンスを盛り込んだ5体の可愛い人形を発表。写真左上から時計回りに本多忠勝、安倍晴明、浄瑠璃姫、朝鮮通信使と鳥山牛之助、それに亀の人形です。また、生田薫さんは町歩きが楽しくなる日本手ぬぐいのデザインと市電Tシャツを展示します。

昭和の元気展

期間：9月13日(土)～23日(祝) 午前10時～午後5時
会場：ヒラノ看板特設会場(本町バス停前)



■発行

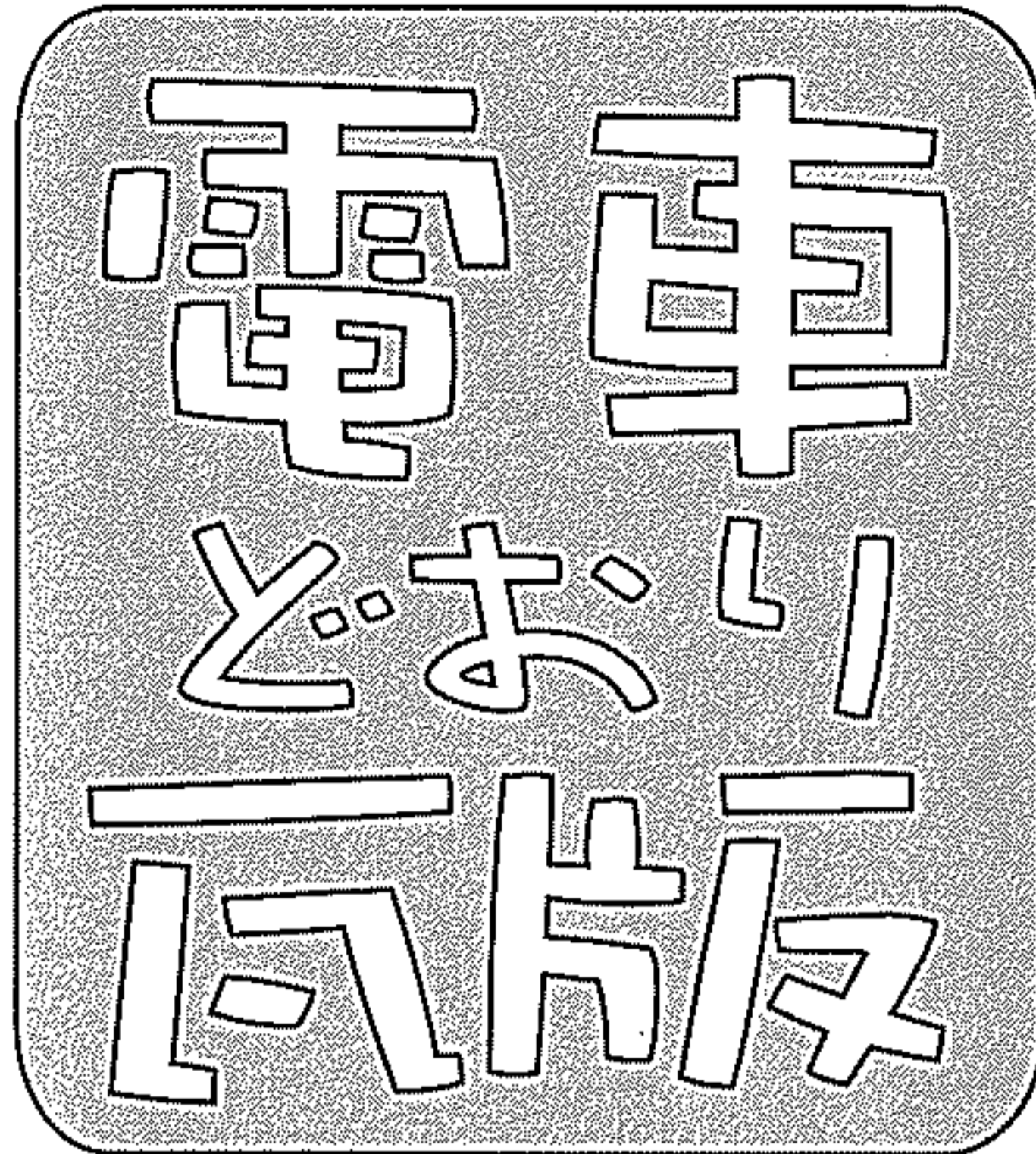
- 電車どおり5商店街
- 能見北発展会
- 本町晴明ストリート
- 岡崎銀座商店街振興組合
- 殿橋通発展会
- 岡崎明大寺商店街振興組合
- 街情報ステーション

■協力

- 岡崎商工会議所
- 岡崎市観光協会

■編集協力

- おかざき塾
- 三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」



2008年(平成20年)9月・10月(第15号)

電車どおりの住民がご近所のネットワークを活かしまち歩きを楽しむおすすめポイントをご紹介します。



町歩きの好きな人は、電車どおり5商店街にぜひ立ち寄ってくださいよ。

電車どおりには

その1, 明大寺の「浄瑠璃姫」

世界遺産となった「文楽」は、江戸時代の浄瑠璃から発展しました。日本の誇る伝統芸能の出発点となった「源氏十二段・浄瑠璃姫物語」は、源義経と浄瑠璃姫の悲恋の物語。その舞台となったのが東岡崎駅北口の明大寺のあたりです。吹矢町の成就院の墓地に浄瑠璃姫と侍女・冷泉の供養塔(写真右)があり、姫が身投げした成就院の裏手の乙川治いは浄瑠璃淵と呼ばれ、「散る花に流れもよどむ 姫の淵」と刻まれた句碑(写真左)が、義経が旅立った奥州に向かって建っています。



その2, 殿橋通の「本多忠勝」

「家康に過ぎたるものが二つあり、唐の頭と本多平八」と敵からも認められた、知勇に優れた三河武士の中の三河武士が本多平八郎忠勝。生涯57回出陣し1度も手傷を負わなかった強者です。家康公が岡崎在城時代の永禄9年(1566)に、本多忠勝が50余名の配下を拝領し屋敷を構えたのが、国道1号線と電車通が交わる「康生通南」の信号の西側あたりです。写真は岡崎公園の家康館前に建つ本多忠勝の銅像です。子孫は江戸時代中期から幕末まで100年間にわたり代々岡崎藩主を務めました。

